

実践記録（小1・特別活動）

1 ねらい

友達の考えやそう考えた理由を知り、自分の考えと比べることで、自他の考えの似ている点や異なる点に気づき、様々な考え方があることを理解することができる。

2 手立て



【色で自分の立場を表現したワークシート】

【名札を用いた、それぞれの立場の可視化】

3 実践の様子

はじめに資料文を読み上げ、「うさぎ君は誰に一つ多くケーキをあげたらいいと思いますか？」と尋ねた。児童はワークシートに色を塗ることで自分の立場を表現し、多くの児童はそう考えた理由も記述した。

全員が自分の考えをもてたところで、黒板に名札を貼らせてそれぞれの考えの違いを可視化した。児童の口からは「あれ、みんなとちがうなあ。」「くま君が多いね、どうしてかな。」といった言葉が出てきた。続いてお互いの考えについて話し合った。児童は、自分と異なる立場の友達の発言を聞き、うなずいたり疑問をもったりしていた。途中で名札を移動する時間を設けると、多くの児童が考えを変えたことが分かった。

何度か話し合いを繰り返すうちに、児童はどの友達に一つ多くあげたとしても、必ず不満に思う人が出てくることに気付いた。その後、働きぶりに関わらず公平・公正にふるまうことが大切だという考えが全体に広がり、振り返りの場面では、今後の自分の生活に生かしたいという意見が出された。



【自分の立場を色で表現する児童】



【考えが変わり、名札を動かす児童】

4 成果と課題

- 自分の立場を、色を用いて表現させたことで、どの児童も自分の考えをもつことができ、その後の話し合いが活発になった。
- 黒板に名札を貼って、それぞれの立場を可視化したことで、児童は自他の考えの違いに気づき、同じ問題に対しても様々な考え方があることを理解していた。
- 名札の移動に興味が向いてしまって、その考えが良いものかどうかを深く考えられなかった児童がいた。教師主導で学級全体で行う話し合いでは、全ての児童が深く考えたり、進んで考えを伝えたりするのは難しいと考える。どの児童も話し合いに参加していくために、話し合いの場を学級全体から小グループへと移していく必要がある。